

文献情報に基づく影響評価（信頼性評価）による試験対象候補物質の選定（第 3 回） に係る平成 22 年度の実施について（案）

1. 文献情報に基づく影響評価（信頼性評価）を行う対象物質の選定

(1) 平成 18 年度に化学物質環境実態調査が実施されたのべ 112 物質（群）のうち、平成 8～18 年度に実施した化学物質環境実態調査において検出された 47 物質群から、現時点で使用実態が認められない物質、対象物質が特定できない物質及び ExTEND2005 において平成 20 年度までに信頼性評価の対象とした物質を除くと、35 物質あった。このうち、平成 21 年度に「化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価」（以下、「信頼性評価」という。）を実施した 15 物質を除いた 20 物質を、本年度に文献検索を行う物質とした。

(2) 平成 19 年度に化学物質環境実態調査が実施されたのべ 69 物質（群）のうち、平成 8～19 年度に実施した化学物質環境実態調査において検出された 34 物質群（当時の POPs 及び HCH 類を除く）から、現時点で使用実態が認められない 1 物質¹⁾、対象物質が特定できない 2 物質²⁾ 及び平成 21 年度までに信頼性評価の対象とした 3 物質³⁾ を除いた 28 物質を、本年度に文献検索を行う物質とした。

1)ペンタクロロベンゼン：2010 年 4 月 1 日に化審法第一種特定化学物質に指定

2)バナジウム及びその化合物：単体と化合物の合計値のみが示されている。

水素化テルフェニル：同族体ごとに測定されている。

3)フェナントレン、フェンチオン及びベンジルアルコール

(3) (1) 及び (2) において選定された 48 物質（別添の番号 1～48 の物質）について平成 22 年 7 月 1 日及び 9 月 2 日に事務局において PubMed*及び TOXLINE**を使用し、キーワード⁴⁾を設定して検索を行った。

* <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/>

**<http://toxnet.nlm.nih.gov/>

4) (物質名 OR CAS 番号) AND (endocrine OR reproduction OR estrogen OR androgen OR thyroid OR hormone)

(4) 検索を行った 48 物質から、上記 (3) の検索により選抜された報告のうち、化学物

質の内分泌かく乱作用に関連しない報告⁵⁾を除き1件以上の報告が残った35物質のうち、報告数が10件を超えた13物質(別添1の番号1~13の物質)を本年度において優先的に信頼性評価を行う物質とする(13物質の名称と主な用途は表1参照)。

5)体内濃度または環境中濃度の測定結果のみの報告、総説、環境中での分解性に関する報告、名称が類似した別物質に関する報告、用途のみの報告、当該物質を被験物質としてではなく溶媒等として使用した報告、急性毒性に関する報告

2. 信頼性評価の実施

資料3-1-2別添2に示した「化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価の進め方」に従って、1(4)の13物質について、信頼性評価を行う。

3. 今後の課題

これまでは化学物質環境実態調査において検出された物質(群)を、化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価の対象物質を選定するための主な母集団としてきた。今後はこれらに加え、PRTRによる排出量等の情報を活用して、検討対象物質として環境リスクが懸念される物質を効率的に抽出する方法を検討する。

表 1 平成 22 年度に実施する信頼性評価の対象とする物質

(名称五十音順)

名称	主な用途
アクリルアミド	紙力増強剤の原料及び沈殿物の凝集剤の原料等
アクリル酸	医薬、接着剤、合成樹脂、洗剤、防汚剤、凝集剤
アラクロール	農薬（除草剤）
2,4-ジクロロフェノキシ酢酸 (別名：2,4-D 又は 2,4-PA)	農薬（除草剤）
ジノカップ	殺菌剤
テトラクロロベンゼン	不詳
2,2',6,6'-テトラブロモ-4,4'-(プロパン-2,2-ジイル)ジフェノール	プラスチック製品の難燃剤
トリクロロベンゼン	染料、顔料中間物、トランス油、潤滑油
ナフタレン	殺虫剤、殺菌剤、樹脂用添加剤
フタル酸ジメチル	可塑剤
メルカプト酢酸	塩化ビニル・ゴムの安定剤、脱毛剤、パーマネントウェービング、 医薬中間物、動物繊維の加工、鉄の比色分析、重金属の除去、金属表面処理剤、防錆剤
モリネート	農薬（除草剤）
りん酸トリフェニル	可塑剤，難燃剤

平成18年度及び平成19年度化学物質環境実態調査 検出物質の用途及び関連文献数
 ※原則として(CAS 番号 OR 化学物質名) AND (endocrine OR reproduction OR estrogen OR androgen OR thyroid OR hormone)による。10/07/01 及び 10/09/02 実施。

番号 調査 年度	CAS 番号	調査対象 物質	用途	生産量・輸入量 ※PRTR 集計排出量	水質 ($\mu\text{g/L}$)	底質 ($\mu\text{g/g-dry}$)	生物 ($\mu\text{g/g-wet}$)	大気 (ng/m^3)	PubMed 及び TOXLINE 関連文献数
1 H19	94-75-7	2,4-ジクロロフェノキシ酢酸 (別名: 2,4-D 又は 2,4-PA)	農薬 (除草剤) ¹⁾	平成 19 (2007) 農薬年度 製造 14.3t (原体)、0.9t (2,4-PA ナトリウム塩一 水化物 95%水溶液)、 110.9kL (2,4-PA ジメチル アミン 49.5%液剤)、 367.1t (2,4-PA エチル 1.4%粒剤)、輸入 90.0t (原体)、輸出 1.0t (製 剤) ²⁾ 平成 19 (2007) 年度化審 法監視化学物質届出結果 公表値なし (100t 未満) ※2007 年度 PRTR 集計結 果 (kg/年) 大気 0、公共 用水域 0、土壌 0、埋立 0、 届出外排出量推定値 83,970、排出量合計 83,970	10/12 0.00014 ~0.39				82
2 H19	79-06-1	アクリルアミ ド	紙力増強剤の 原料及び沈殿 物の凝集剤の 原料等		13/48 0.0032 ~0.049	40/64 0.000085~ 0.0019	貝 7/7 魚 16/16 鳥 2/2 貝 0.00005~ 0.0014 魚 0.000024 ~0.0019 鳥 0.00024~ 0.00068		76
3 H19	79-94-7	2,2',6,6'-テトラ プロモ-4,4'-(ブ ロパン-2,2-ジ イル)ジフェノ ール	プラスチック 製品の難燃剤		1/48 0.0051	13/64 0.00057~ 0.0062	貝 1/7 魚 4/16 鳥 0/2 貝 0.00008~ 0.00009 魚 0.00006~ 0.00009 鳥-		46
4 H19	91-20-3	ナフタレン	殺虫剤、殺菌 剤、樹脂用添加 剤	平成 19 (2007) 年製造 202,680t (ナフタリン) ¹⁾ 平成 16 (2004) 年度化学 物質の製造・輸入量に関 する実態調査確報値「ナ フタ レン」として 10,000~ 100,000t 未満				7/8 50~530	37
5 H19	15972- 60-8	2-クロロ-2',6'- ジエチル -N-(メトキシ メチル)アセト アニリド (別 名: アラクロー ル)	農薬 (除草剤) ¹⁾	平成 19 (2007) 農薬年度 製造 143.5kL (43%乳剤)、 4.9t (40%マイクロカプセ ル剤 (フロアブル))、 輸入 141.0t (製剤) ²⁾ ※2007 年度 PRTR 集計結 果 (kg/年) 大気 1、公共 用水域 0、土壌 0、埋立 0、 届出外排出量推定値 58,725、排出量合計 58,726	2/12 0.019~ 0.031	0/12 -			27

番号 調査 年度	CAS 番 号	調査対象 物質	用途	生産量・輸入量 ※PRTR 集計排出量	水質 ($\mu\text{g/L}$)	底質 ($\mu\text{g/g-dry}$)	生物 ($\mu\text{g/g-wet}$)	大気 (ng/m^3)	PubMed 及び TOXLINE 関連文献数
6 H19	79-10-7	アクリル酸	医薬、接着剤、 合成樹脂、洗 剤、防汚剤、凝 集剤	平成 16 (2004) 年度化学 物質の製造・輸入量に関 する実態調査確報値「ア クリル酸」として 100,000 ～1,000,000t 未満 ※2007 年度 PRTR 集計結 果 (kg/年) 大気 46,572、 公共用水域 662、土壌 0、 埋立 0、届出外排出量推 定値 4,514、排出量合計 51,748	3/10 0.10～ 2.9			4/4 180	15
7 H19	2212-6 7-1	S-エチル=ヘキ サヒドロ-1H- アゼピン-1-カ ルボチオアア ト (別名: モ リネート)	農薬 (除草剤) ¹⁾	平成 19 (2007) 農薬年度 製造 3.6t (8%粒剤)、輸 入 300.0t (原体) ²⁾ ※2007 年度 PRTR 集計結 果 (kg/年) 大気 0、公共 用水域 0、土壌 0、埋立 0、 届出外排出量推定値 150,732、排出量合計 150,732	1/12 0.0051 ～ 0.0099				13
8-1 H19	87-61-6	1,2,3-トリクロ ロベンゼン	染料、顔料中間 物、トランス 油、潤滑油					温 26/26 寒 25/25 温 0.019～ 1.7 寒 0.026～ 1.7	12 (トリクロ ロベンゼン として)
8-2 H19	120-82- 1	1,2,4-トリクロ ロベンゼン	染料、顔料中間 物、トランス 油、潤滑油					温 26/26 寒 25/25 温 0.20～15 寒 0.18～14	(トリクロ ロベンゼン として)
8-3 H19	108-70- 3	1,3,5-トリクロ ロベンゼン	染料、顔料中間 物、トランス 油、潤滑油					温 26/26 寒 25/25 温 0.011～ 1.3 寒 0.010～ 0.23	(トリクロ ロベンゼン として)
9 H19	131-11- 3	フタル酸ジメ チル	可塑性 ¹⁾	平成 19 (2007) 年製造約 3,000t ¹⁾ 平成 16 (2004) 年度化学 物質の製造・輸入量に関 する実態調査確報値「フ タル酸ジアルキル (C=1 ～2)」として 1,000～ 10,000t 未満	7/7 0.0022 ～ 0.0097	6/6 0.00054～ 0.0063			12
10 H19	68-11-1	メルカプト酢 酸	塩化ビニル・ゴ ムの安定剤、脱 毛剤、パーマネ ントウェーピ ング、医薬中間 物、動物繊維の 加工、鉄の比色 分析、重金属の 除去、金属表面 処理剤、防錆剤 ¹⁾	平成 16 (2004) 年度化学 物質の製造・輸入量に関 する実態調査確報値「チ オグリコール酸」として 1,000～10,000t 未満 ※2007 年度 PRTR 集計結 果 (kg/年) 大気 15、公共 用水域 1,924、土壌 0、埋 立 0、届出外排出量推定 値 1,779、排出量合計 3,717	3/5 0.0016 ～0.024				12

番号 調査 年度	CAS 番 号	調査対象 物質	用途	生産量・輸入量 ※PRTR 集計排出量	水質 (µg/L)	底質 (µg/g-dry)	生物 (µg/g-wet)	大気 (ng/m ³)	PubMed 及び TOXLINE 関連文献数
11 H19	115-86- 6	りん酸トリフ ェニル	可塑剤, 難燃剤 ¹⁾	平成 16 (2004) 年度化学 物質の製造・輸入量に関 する実態調査確報値「ト リフェニル (又はモノメ チルフェニル, ジメチル フェニル, ノニルフェニ ル) ホスフェート」とし て 10,000~100,000t 未満、 「トリス (フェニル, モ ノメチルフェニル, ジメ チルフェニル, エチルフ ェニル, ノニルフェニル 混合) ホスフェート」と して 1,000~10,000t 未満				5/5 0.054~0.33	12
12 H18	131-72 -6	2,4-ジニトロ -6-オクチルフ ェニル=クロト ナート及び 2,6-ジニトロ -4-オクチルフ ェニル=クロト ナートの混合 物(オクチル基 が 1-メチルヘ プチル基、1- エチルヘキシ ル基又は 1-プ ロピルペンチ ル基であるも のの混合物に 限る。)(別名: ジノカップ又 は DPC)	殺菌剤 ¹⁾	不詳				nd~0.29 1/5	11
13-1 H19	634-66- 2	1,2,3,4-テトラ クロロベンゼ ン						温 26/26 寒 25/25 温 0.031~ 0.95 寒 0.033~ 0.40	10 (テトラク ロロベンゼ ンとして)
13-2 H19	634-90- 2	1,2,3,5-テトラ クロロベンゼ ン						温 26/26 寒 25/25 温 0.007~ 0.29 寒 0.013~ 0.15	(テトラク ロロベンゼ ンとして)
13-3 H19	95-94-3	1,2,4,5-テトラ クロロベンゼ ン						温 26/26 寒 25/25 温 0.020~ 0.39 寒 0.017~ 0.15	(テトラク ロロベンゼ ンとして)

番号 調査 年度	CAS 番 号	調査対象 物質	用途	生産量・輸入量 ※PRTR 集計排出量	水質 ($\mu\text{g/L}$)	底質 ($\mu\text{g/g-dry}$)	生物 ($\mu\text{g/g-wet}$)	大気 (ng/m^3)	PubMed 及び TOXLINE 関連文献数
14 H18	109-99 -9	テトラヒドロ フラン	各種樹脂(特に 塩化ビニル系 樹脂)の溶剤と して表面コー ティング、保護 コーティング、 接着剤、フィル ムの製造等に 使用。印刷イン キの溶剤、コー ルドクリーナ ー、ペイントリ ムーバー、抽出 溶剤、グリニャ ール反応及び LiAlH_4 還元 のための溶媒。合 成皮革表面処 理剤、合成原料 (1,4-ジクロ ロブタン、2,3- ジクロロテト ラヒドロフラン 、ポリエーテ ル、バレロラク トン、プチロラ クトン、ピロリ ドン等)。	平成 18 年 (2006 年) : 国 内需要約 60,000t (輸入 4,521t)、輸出 5,927t				nd~260 3/7	8
15 H19	23564- 05-8	ジメチル =4,4'-(<i>o</i> -フェニ レン)ビス(3-チ オアロファナ ート) (別 名:チオファネ ートメチル)	農薬(殺菌剤) ¹⁾	平成 19 (2007) 農薬年度 製造 5,063.6t (原体)、 330.6t (70%水和剤)、 125.5kL (40%水和剤ゾ ル)、52.0kL (70%水和 剤(フロアブル))、30.0kL (0.2%水和剤(スプレ ー))、590.1t (2%粉剤)、 164.9t (3%ペースト 剤)、9.9t (20%ペースト 剤)、輸出 3,310.7t(原体)、 802.4t (製剤) ²⁾	1/9 0.00090				7
16 H19	87-68-3	ヘキサクロ ブタ-1,3-ジ エン	農薬全般(中間 体を含む)及び 合成中間体		0/48 -	10/64 0.0000085~ 0.0013	貝 0/7 魚 0/16 鳥 0/2 貝- 魚- 鳥-		6
17 H18	834-12 -8	2-エチルアミ ノ-4-イソプロ ピルアミノ-6- メチルチオ -1,3,5-トリア ジン(別名:ア メトリン)	農薬(除草剤)	平成 16 (2004) 農薬年 度: 製造 23.0kL (25%乳 剤)、輸入 5.0t (原体) ²⁾ 平成 17 (2005) 農薬年 度: 不詳 ²⁾ 平成 18 (2006) 農薬年 度: 不詳 ²⁾ 化審法監視化学物質届出 結果公表値なし(100t 未 満)	nd~ 5.1 1/11				6

番号 調査 年度	CAS 番 号	調査対象 物質	用途	生産量・輸入量 ※PRTR 集計排出量	水質 ($\mu\text{g/L}$)	底質 ($\mu\text{g/g-dry}$)	生物 ($\mu\text{g/g-wet}$)	大気 (ng/m^3)	PubMed 及び TOXLINE 関連文献数
18 H18	1194-6 5-6	2,6-ジクロロ ベンゼンニトリ ル(別名:ジク ロベニル又は DBN)	農薬(除草剤)	平成18(2006)年度:製 造・輸入128t(化審法監 視化学物質届出結果公表 値) ※2006年度PRTR集計 結果(kg/年)大気9、公 共用水域0、土壌0、埋立 0、届出外排出量推定値 161,869、排出量合計 161,879				0.10~0.76 7/7	6
19 H19	91-22-5	キノリン	農薬、医薬、界 面活性剤、清缶 剤用インヒビ ター ¹⁾	平成19(2007)年製造約 900t(推定) ¹⁾	4/7 0.0030 ~0.013				5
20 H18	108-94 -1	シクロヘキサ ノン	カプロラクタ ム、アジピン酸 及びナイロン の製造原料、高 沸点溶剤(硝化 綿、セルロイ ド、セルロース エステル、塩基 性染料、脂肪、 ワックス、ゴ ム、樹脂ラッカ ー、合成樹脂 等)、ペンキ及 びワニスのは く離剤、染色の 安定剤、ケトン 樹脂	「化学物質の製造・輸入 量に関する実態調査」に よると平成16(2004)年 度における「シクロヘキ サノン」としての製造量 及び輸入量は100,000~ 1,000,000t未滿	nd~ 500 1/5	nd 0/5			5
21 H19	122-39- 4	ジフェニルア ミン	ゴム用添加剤、 油用添加剤、色 素(塗料、顔料)	平成19(2007)年製造約 2,500t(推定) ¹⁾ 平成19(2007)年度製造・ 輸入12,323t(化審法監視 化学物質届出結果公表 値) 平成16(2004)年度化学 物質の製造・輸入量に関 する実態調査確報値「ジ フェニルアミン」として 10,000~100,000t未滿 ※2007年度PRTR集計結 果(kg/年)大気137、公 共用水域0、土壌0、埋立 0、届出外排出量推定値3、 排出量合計140	8/19 0.011~ 0.026				4
22 H18	3766-8 1-2	N-メチルカル バミン酸 2-sec-ブチルフ ェニル(別名: フェノブカル ブ又は BPMC)	農薬(殺虫剤)、 水稲用殺虫剤 ²⁾	平成18(2006)年度:製 造・輸入2,288t(化審法 監視化学物質届出結果公 表値) ※2006年度PRTR集計 結果(kg/年)大気0、公 共用水域0、土壌0、埋立 0、届出外排出量推定値、 170,257	0.2~ 5.1 10/10				4

番号 調査 年度	CAS 番 号	調査対象 物質	用途	生産量・輸入量 ※PRTR 集計排出量	水質 (µg/L)	底質 (µg/g-dry)	生物 (µg/g-wet)	大気 (ng/m ³)	PubMed 及び TOXLINE 関連文献数
23 H19	87-82-1	ヘキサブロモ ベンゼン	熱可塑性樹脂、 熱硬化性樹脂、 合成繊維及び 合成ゴム製品 の難燃剤		0/48 —	21/64 0.0011～ 0.015	貝 0/7 魚 6/16 鳥 1/2 貝— 魚 0.0001～ 0.0002 鳥 0.0001～ 0.0002		3
24 H19	120-61- 6	テレフタル酸 ジメチル	合成繊維、合成 樹脂 1)	平成 19 (2007) 年輸入 26,846t、輸出 3,121t ¹⁾ 平成 16 (2004) 年度化学 物質の製造・輸入量に関 する実態調査確報値「テ レフタル酸ジメチル」と して 100,000～1,000,000t 未満 ※2007 年度 PRTR 集計結 果 (kg/年) 大気 6,280、 公共用水域 0、土壌 0、埋 立 0、届出外排出量推定 値 0、排出量合計 6,280				8/9 0.030～1.0	3
25 H18	84-65- 1	9,10-アントラ センジオン (別 名: アントラキ ノン)	アントラキノ ン系染料の出 発原料。スルホ ン化、ハロゲン 化、ニトロ化等 により酸性染 料、媒染染料、 建染染料、分散 染料等広範な 染料の中間体 となる。	不詳	nd～ 140 1/7				3
26 H18	598-78 -7	2-クロロプロ ピオン酸	合成原料 (医薬 品、農薬)	平成 17 年 (2005 年): 製 造 400t 平成 18 年 (2006 年): 不 詳	nd 0/5			nd～1.4 4/5	3
27 H18	126-73 -8	りん酸トリブ チル	触媒、安定剤 (樹脂・繊維)、 潤滑油添加剤、 安全ガラス用 フィルム、耐光 性白色ラッカ ー、柔軟性付与 剤、製紙用・織 維用消泡剤	平成 17 (2005) 年度: 製 造・輸入 142t (化審法監 視化学物質届出結果公表 値) 平成 18 (2006) 年度: 公 表値なし (100t 未満) (化 審法監視化学物質届出結 果公表値) ※2006 年度 PRTR 集計 結果 (kg/年) 大気 1、公 共用水域 98、土壌 0、埋 立 0、届出外排出量推定 値、排出量合計 99	nd～ 84 10/19				3
28 H18	106-88 -7	1,2-エポキシ ブタン	洗浄剤	「化学物質の製造・輸入 量に関する実態調査」に よると平成 16 (2004) 年 度における「ブチレンオ キンド」としての製造量 及び輸入量は 1,000～ 10,000t 未満	nd～ 4.7 2/5			nd～160 2/3	3
29 H19	38640- 62-9	ジイソプロピ ルナフタレン	熱媒体油 ¹⁾	平成 19 (2007) 年度製造・ 輸入 780t (化審法監視化 学物質届出結果公表値)	6/18 0.0015 ～ 0.0044				2

番号 調査 年度	CAS 番 号	調査対象 物質	用途	生産量・輸入量 ※PRTR 集計排出量	水質 (µg/L)	底質 (µg/g-dry)	生物 (µg/g-wet)	大気 (ng/m ³)	PubMed 及び TOXLINE 関連文献数
30 H19	92-52-4	ビフェニル	熱媒体及びその原料、染色助剤、防かび剤、合成樹脂、香料 ¹⁾	平成 19 (2007) 年製造 5,000t ¹⁾ 平成 16 (2004) 年度化学物質の製造・輸入量に関する実態調査確報値「ビフェニル」として 1,000～10,000t 未満				7/8 4.5～28	2
31 H19	28575-17-9	ジエチルビフェニル	熱媒体 ¹⁾	平成 19 (2007) 年度化審法監視化学物質届出結果公表値なし (100t 未満)	0/13 —	2/11 0.000076～0.0071	魚鳥 1/10 魚鳥 0.000059～0.000090		1
32 H19	110-83-8	シクロヘキセン	シクロヘキサノール・L-リジン中間体、特殊溶剤、シクロヘキセンオキサイド等各種有機合成原料 ¹⁾	平成 19 (2007) 年度製造・輸入 142,645t (化審法監視化学物質届出結果公表値)	6/11 0.00029～0.014	1/11 0.00057～0.0027			1
33 H19	103-50-4	ジベンジルエーテル (別名: [(ベンジルオキシ)メチル]ベンゼン)	染色キャリアー、香料 ¹⁾	平成 19 (2007) 年度化審法監視化学物質届出結果公表値なし (100t 未満)	1/8 0.0052～0.0083	3/6 0.00018～0.021			1
34 H19	26898-17-9	ジベンジルトルエン	2次可塑剤、コンデンサー絶縁油、感圧紙用インク溶剤 ¹⁾	平成 19 (2007) 年度製造・輸入 1,089t (化審法監視化学物質届出結果公表値)	8/13 0.00049～0.0053	9/11 0.0011～0.74	魚鳥 5/10 魚鳥 0.000058～0.036		1
35 H18	98-01-1	フルフラール	溶剤、合成樹脂 (フラン樹脂)、テトラヒドロフラン原料、ナイロン原料 (アジピン酸の製造)、浮遊選鉱剤等	平成 18 年 (2006 年): 輸入 2,584t、輸出 52t				nd～85 5/7	1
36 H19	105-67-9	2,4-キシレノール	医薬・顔料・抗酸化剤中間体 ¹⁾	平成 16 (2004) 年度化学物質の製造・輸入量に関する実態調査確報値「ジアルキル (C=1～5) フェノール」として 10,000～100,000t 未満、「ポリ (1～3) アルキル (C=1～3) ポリ (1～3) ヒドロキシポリ (1～5) フェニル」として 100～1,000t 未満	5/9 0.0016～0.0043				0
37 H19	6423-43-4	二硝酸プロピレン	不詳	不詳				1/8 2.0～3.9	0

番号 調査 年度	CAS 番 号	調査対象 物質	用途	生産量・輸入量 ※PRTR 集計排出量	水質 ($\mu\text{g/L}$)	底質 ($\mu\text{g/g-dry}$)	生物 ($\mu\text{g/g-wet}$)	大気 (ng/m^3)	PubMed 及び TOXLINE 関連文献数
38 H19	6731-3 6-8	1,1-ビス(<i>tert</i> - ブチルジオキ シ)-3,3,5-トリ メチルシクロ ヘキサン	天然ゴム、合成 ゴム(エチレン プロピレンゴ ム(EPR)等)、 エチレン酢酸 ビニルポリマ ー(EVA)等 の α -オレフィ ンポリマー及 びコポリマー の架橋剤、不飽 和ポリエステル の硬化剤、ス チレン等の重 合開始剤 ¹⁾	平成 19 (2007) 年度公表 値なし (100t 未満) (化 審法監視化学物質届出結 果公表値)	0/11 -	1/11 0.00014~ 0.00017			0
39 H19	90-13-1	1-クロロナフ タレン	洗浄剤	平成 19 (2007) 年度化審 法監視化学物質届出結果 公表値なし (100t 未満)				5/8 0.16~0.73	0
40 H18	576-26 -1	2,6-キシレノ ール	合成原料(合成 樹脂、防かび 剤、抗酸化剤、 耐熱性樹脂)	平成 18 (2006) 年度：製 造・輸入 11,789t (化審 法監視化学物質届出結果 公表値) ※2006 年度 PRTR 集計 結果 (kg/年) 大気 1,200、 公共用水域 0、土壌 0、埋 立 0、届出外排出量推定 値、排出量合計 1,200	nd~ 3.4 2/6				0
41 H18	110-19 -0	酢酸イソブチ ル	香料 (バナナ、 パイナップル、 ラズベリー、 西洋なし 等)	平成 18 年 (2006 年)：製 造 1t				nd~570 4/7	0
42 H18	63935- 38-6	α シアノ-3-フ ェノキシベン ジル=2,2-ジク ロロ-1-(4-エト キシフェニル) シクロプロパ ンカルボキシ ラート (別名： シクロプロト リン)	農薬 (殺虫剤)	平成 18 (2006) 農薬年 度：製造 13.3t (原体)、 29.6t (2%粒剤)、97.8t (5%粒剤) ²⁾	nd~ 120 1/5			nd 0/5	0
43 H18	102-81 -8	2-(ジ- <i>n</i> -ブチル アミノ)エタノ ール	触媒 (ポリウレ タン合成)、そ の他 (繊維助 剤、乳化剤)	不詳 ※2006 年度 PRTR 集計 結果 (kg/年) 大気 7、公 共用水域 0、土壌 0、埋立 0、届出外排出量推定値、 排出量合計 7	nd~ 76 1/5			nd 0/5	0
44 H18	3864-9 9-1	2,4-ジ- <i>tert</i> - ブチル-6-(5-クロ ロ-2 <i>H</i> -1,2,3-ベン ゾトリアゾ ール-2-イル)フ ェノール	不詳	平成 18 (2006) 年度：製 造・輸入 549t (化審法監 視化学物質届出結果公表 値)	nd~ 0.23 4/6	0.18~41 6/6	0.053~3.0 10/10		0

番号 調査 年度	CAS 番 号	調査対象 物質	用途	生産量・輸入量 ※PRTR 集計排出量	水質 ($\mu\text{g/L}$)	底質 ($\mu\text{g/g-dry}$)	生物 ($\mu\text{g/g-wet}$)	大気 (ng/m^3)	PubMed 及び TOXLINE 関連文献数
45 H18	110-52 -1	1,4-ジブプロモ ブタン	医薬中間体	平成 18 年 (2006 年): 製 造 30t (推定) 「化学物質の製造・輸入 量に関する実態調査」に よると平成 16 (2004) 年 度における「 α,ω -ジブプロ モアルカン (C=2~4)」 としての製造量及び輸入 量は 1,000~10,000t 未 満	nd~ 4.0 1/5				0
46 H18	3846-7 1-7	2-(2 <i>H</i> -1,2,3-ベ ンゾトリアゾ ール-2-イル) -4,6-ジ- <i>tert</i> -ブ チルフェノール	不飽和ポリエ ステル樹脂、ポ リカーボネー ト、塩化ビニル 樹脂、ポリアク リル酸エステ ル、ポリアセタ ール、ポリオレ フィン、ポリメ タクリル酸エ ステル、ポリア ミド、印刷・感 光材料及び塗 料に紫外線吸 収剤として添 加 ⁵⁾ 。	平成 17 年 11 月 18 日 に開催された厚生労働省、 経済産業省及び環境省合 同審議会において「継続 的に摂取される場合には 人の健康を損なうおそれ がある」可能性が示唆さ れたことを受け、国内製 造者及び販売者は、平成 18 年 1 月 13 日までに製 造・販売を中止し、今後 は製造・販売を行わない との意向を示している。 ⁵⁾	nd~ 0.10 2/6	0.009~5.8 6/6	0.009~3.7 10/10		0
47 H18	109-59 -1	2-(1-メチルエ トキシ)エタノ ール	インク、ペン キ、レジンの 媒体、工業用の 洗剤及び乳化 剤等 ²⁾	平成 16 (2004) 年度にお ける「アルキレン (C=2 ~8) グリコールモノアル キル (C=2~8) エーテル」 としての製造量及び輸入 量は 10,000~100,000t 未満				nd~30 3/7	0
48 H18	13619 1-64-5	メチル=2-(4,6- ジメトキシ-2- ピリミジニル オキシ) -6-[1-(メトキ シイミノ)エチ ル]ベンゾア ート (別名: ピリ ミノバックメ チル)	農薬 (除草剤)	平成 18 (2006) 農薬年 度: 製造 21.0t (原体)、 148.0t (1.2%1 キロ粒 剤)、輸出 4.6t (原体) ²⁾	nd~ 2.5 1/13			nd 0/5	0

参考文献

1) 化学工業日報社、15710 の化学商品(2010)、15509 の化学商品(2009)、15308 の化学商品(2008)、15107 の化学商品(2007)、

14906 の化学商品(2006)及び 14705 の化学商品(2005)

2) 社団法人日本植物防疫協会、農薬要覧 (農林水産省消費・安全局農産安全管理課・植物防疫課監修)

3) 国立医薬品食品衛生研究所、既存化学物質毒性データベース

(http://dra4.nihs.go.jp/mhlw_data/jsp/SearchPage.jsp)

4) 独立行政法人農林水産消費安全技術センター、登録農薬有効成分 (魚毒性・毒性一覧)、失効有効成分一覧

(<http://www.acis.famic.go.jp/toroku/index.htm>)

- 5) 平成 18 年度第 1 回化学物質審議会安全対策部会（平成 18 年 6 月 30 日開催）参考資料 1（2-(2H-1,2,3-ベンゾトリアゾール-2-イル)-4,6-ジ-tert-ブチルフェノールについて）